

# 2021年度大学入試展開図

2021年度からの大規模な入試改革:①「思考力・判断力・表現力」を重視した評価  
②英語4技能(読む・書く・聴く・話す)の評価  
↓  
大学入学共通テストの導入:①国語(現代文)、数学(I、I・A)における記述式問題  
②民間の英語4技能資格・検定試験の一括利用

2020年度入試動向

超安全志向  
浪人回避へ

「大規模な入試改革」は、結局は先送りへ・・・「センター試験⇒共通テスト」は小さな改革へ  
しかし、公表時期が遅く、2020年度入試動向の変化には繋がらなかった

## 新型コロナウイルス感染症の拡大

(学校一斉休校、各種イベントの中止・縮小、不十分な模試受験、移動制限、経済への深刻な影響)

### 2021年度入試動向(秋期～冬期(年内))

共通テスト志願者数…3年連続減少、ほぼ全員が「第1日程(1/16・17)」を選択

現役=前年度並…移動制限への不安から県内受験可能な共通テストへの積極的な指導。既卒=20%近い減少…2020年度入試での「浪人回避」の影響。

総合型選抜・学校推薦型選抜志願者数…意外に伸び悩み

「指定校推薦」を除き、減少傾向…学校一斉休校による指導不足、課外活動の機会がなくなり、受験生には大学に対しての「売り物」がない!

### 2021年度共通テスト実施結果

受験率大幅ダウン…(2020年度)94.51%⇒(2021年度)90.45%(-4.06ポイント)…学業の遅れ、コロナ禍で無理をしない

公民、理科②の2教科で得点調整実施…初年度で難しかった科目間難易度の調整。生物、倫理は予想以上の高成績。

平均点アップの科目が目立つ予想外の結果…事前予想の「難化」なし。新傾向の出題が見られたが、内容的には平易。

<UP>生物(+15.1点)、数学Ⅱ・B(+10.9点)、地学(+7.1点)、倫理(+6.6点)、地学基礎(+6.5点)、数学Ⅰ・A(+5.8点)など

<DOWN>地理B(-6.3点)、化学基礎(-3.6点)、生物基礎(-2.9点)、国語(-1.8点)、英語リスニング(-1.4点)、日本史B(-1.2点)

5教科7(8)科目<900点満点>予想平均点(得点調整結果を含む)

文系…552点(+4点)、理系…572点(+13点)…センター試験時代の全国平均点の目標値得点率60%を超えた。

### 国公立大出願状況

志願者数…前年度対比指数97、2年連続減少

<減少理由>①共通テスト受験者数減少  
②コロナ禍で都市部から地方への移動減少  
(特に、北海道、東北)

#### ■系統別動向

薬、総合科学はやや増加、その他は前年度並か減少。

#### ■地区別動向

前期は東海を除き減少、北海道、東北、北関東の減少が顕著。  
後期は前年度減少した地区が増加。

#### ■データネット(共通テスト自己採点集計)目標ライン別動向

前期は目標ライン75～80%のグループが微増、他はやや減少。  
後期は目標ライン85%以上及び65%未満のグループでやや減少。

#### ■難関大動向

◎難関国立10大学(旧帝大+東工大+一橋大+神戸大)  
前期は5大学が増加、5大学が減少、10大学全体では微減。  
後期は募集人員が多い神戸大、九大が増加、北大は減少。  
◎医学部医学科  
医学科全体の減少傾向に歯止め。前期は7年ぶりに微増、  
後期は2大学廃止の影響で2年連続減少。

### 私立大出願状況

志願者数…前年度対比指数86、2年連続減少

<減少理由>①併願校数の多い既卒生減少  
②コロナ禍で地方から都市部への流入が減少し、1人当たりの併願校数が減少  
③共通テストへの不安から共通テスト利用方式の減少(新規を除くと19%減少)  
④文系人気低下が文系定員の多い私立大に大きく影響

#### ■系統別動向

志願者数は全系統で減少。人文科学、外国語、国際関係、生活科学、歯、農・水産、スポーツ・健康の減少が顕著。  
合格者数は18系統中11系統で増加し、競争緩和。

#### ■地区別動向

志願者数は東北を除いた地区は、全体とほぼ同じ減少率。  
合格者数は大都市圏で増加、地方では減少と対照的。

#### ■模試合格判定ライングループ別動向

志願者数は全グループで減少、近年見られた極端な「安全志向」が変化。合格者数は文理とも増加で競争は緩和、ただし目標ライン偏差値50未満のグループは減少。  
実質倍率は文系の全グループはダウンで競争緩和。理系は目標ライン偏差値50以上のグループで競争緩和、目標ライン偏差値50未満のグループは実質的には「全入」状態。

## 2021年度入試のキーワード「3C入試」

### コンパクト(Compact)な入試動向

○距離的…自宅近隣の大学(長距離移動への不安) ○レベル的…「チャレンジ」しないが、2020年度のような「超安全志向」でもない  
○出願校数…「身の丈にあった」大学、少数「激選」→大多数の私立大が志願者数減少

### 保守的(Conservative)な入試動向

○大きな入試改革を嫌う(共通テスト、私立大新型入試、近年改革を行ってきた女子大)…イベントが開催できずに、「改革」が伝わらなかった  
○コロナ禍対策の配慮さえ拒否反応(個別試験を中止、共通テストのみでの判定への変更=過去の合格ラインがわからないことへの大きな不安)

### 利便性(Convenience)重視の入試動向

○受験機会が増加した大学、受験料の減免を行った大学に志願者集中  
○大学入学後の負担も検討…受験生にとって、利益が大きい大学の人気アップ=自宅通学、学費が高額でない、対面授業の実施